

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2023年12月8日
第49号

特集▼小樽再発見(10) 街作り仕掛け人

第3倉庫から切り拓く未来

旧北海製罐第3倉庫の活用計画はOTARU CREATIVE PLUS が担っている。専務理事を務める福島慶介さんは、旧岡川薬局、旧小堀商店などの歴史的建造物をリノベーションし、利活用されている。クリエイティブ・ディレクターのお仕事についてうかがった。

クリエイターからディレクター

▼建築家、クリエイティブ・ディレクターのお仕事について教えてください。

建築学を中心に様々な知識・経験を活かし、街作り、空間演出などをデザインしています。30歳まではクリエイターとして、東京で活動していました。千歳

水族館の空間演出や旧北海製罐第3倉庫（以下、第3倉庫）のライトアップなどを手がけてきました。創造性を大切にする視点から「クリエイティブ・ディレクター」と名乗っています。人の真似ではなく、小樽にしかできないものを作り上げることを目指しています。

これまで建築・映像・アートの分野で、23の賞を受賞しましたが、最近是国内の一流の人が小樽で仕事ができるように、間に入って調整するディレクターの役目が増えました。

歴史的建造物を改修・利活用

▼古民家、歴史的建造物、重要文化財の改修・復元・営繕をなさってきたと聞いていますが、具体例や苦労、やりがいをお聞かせ下さい。

旧岡川薬局 (Cafelitte)、山ノ上の坂 STAND&BAKE (旧小堀商店)、小樽市総合博物館 機関車庫 (国の重要文化財)、旧日本郵船小樽支店などを手がけてきました。

歴史的建造物を補修するのは技術的には難しいです。材料も古い物に合わせなければならぬ。復元は特に難しく、例えば、機関車庫は周りと浮かないように古色塗りしましたが、塗装できる職人を本州から招きました。工期も延びました。日本郵船も工期が延び、2025年に完了する予定です。難しい仕事ですが、みんなが知っている歴史的建造物の改修や復元に関われることは誇りに思います。

手宮線、第3倉庫にスポット

▼小樽の街の歴史的資源を今後どのように活用したいとお考えですか。

2021年、小樽青年会議所と連携し、旧手宮線の鍵盤イン

スタレーションを行いました。LEDの照明で枕木をピアノの鍵盤に見立て、踏んだら音が鳴る仕掛け。みんなで演奏できました。役割を失った存在に新たな役割を与えることができました。(左写真)



旧手宮線の鍵盤インストール

第3倉庫のライトアップを手がけています。建物と周辺を照らし、防犯にもなります。(左写真)



旧北海製罐第3倉庫のライトアップ

双葉の郷里

私は小樽再発見シリーズで主にまちづくりについて、いろいろな方のところに取材に行きました。その中でたくさんさんの刺激をもらい、私はとても良い経験が出来ていると実感しています。

まちづくりを他人事ではなく自分ごととして考えることで、たくさんさんの学びを得ることができました。

高校生の時点でこういった経験をするのはすごく良い刺激になります。実際に私は物事の見方がかなり変わって凄く驚いています。また、活動を通して仲間ができることも楽しいと思います。

1月13日と2月3日には「学生対象ワークショップ」(小樽市日本遺産推進協議会、※教室にちらし掲示)というイベントがあります。これは「もしあなたが小樽観光大使だったら小樽の魅力をどう未来に繋げるか」ということを話し合ってみようというイベントです。

今回の取材で福島慶介さんが仰っていた「共創」というキーワードにも関係します。小樽のまちづくりに興味がある人はぜひ参加してみてください。違いますが、価値観の人と一緒に考え共創することとはきっと良い経験になると思いますし、そこで同じ考えの仲間と出会えるかもしれません。(大塚翔太)

明るいとかい側の広場に人の賑わいを作ることできません。古い建築物がどんどん壊される中、小樽の魅力を引き出し、小樽ならではの空間を演出しています。

30歳で東京から戻ったのは、小樽なら自分の力を発揮できると思ったからです。少しずつ活動が認められ、オフアが増え、権限が与えられるようになり、クリエイターからプロデューサーやディレクターとして活動するようになってきました。一人での制作から、小樽の人と一緒にモノを創るようになりました。

▼第3倉庫の活用計画ならびにOTARU CREATIVE PLUS（以下OC+）の活動について教えてください。
NPO法人OC+は、第3倉庫の利活用を目指し、小樽市と連携協定を結びました。第3倉庫では、人が自由に往来できる空間、交流の場の創造、新しい価値を創ろうとしています。

小樽港は昔小牧や石狩に物流の拠点を明け渡しつつあります。港エリアは「モノからヒトへ」変化しなければなりません。そういうわけで、ヒトのための空間作りを目指しています。

施しました。

ベテランの方々からプレハブにしたらという意見もありましたが、活動に強い信念を持ち、プロジェクトションマッピングも行った2年間実施しました。こうした活動に若い人を巻き込み仕事を発注できるようにしました。これらの流れを汲むOC+には小樽の街を変える力と思いをもち、街作りの手法を知る即戦力が理事と結集しています。

例を挙げると、いずれも小樽生まれの、五十嵐慎一郎氏（岬の湯しやこたん社長、NOMAPS総合プロデューサー、店舗や施設の企画・デザイン・運営など手がける）、山下智博氏（中国に600万人のフォロワーをもつインフルエンサー、番組制作などで日中をつなぐビジネスを展開、小樽ふれあい観光大使）、伊藤由美氏（オフィスキュー社長、食、観光、地域産品等、北海道の魅力メディアで発信）です。

私たちは「自分たちごと」の街作りを提唱し、共創イベントを行いました。「自分たち場所」と題して「Chairing × ぼくたちの記憶倉庫」というイベントや秋には倉庫でマルシェを実施しました。今はまだ倉庫の活用方法を探る実験期間です。

▼福島工務店のショールーム「情緒」『Re』小樽の新たな夜明け」素晴らしい作品ですね。山下智博さんも出演していただきましたね。あらためて小樽の良さ、温もりを感じる事ができました。作品の反響をお聞かせ下さい。

「すごく良かった」と反響がありました。福島工務店70周年記念のブランド・ムービー（会社の理念発信）ですが、ちよつとコミカルなショートフィルムにしました。コロナ禍にあっても、小樽をもっとよくできるという思いを共有できました。山下さんのおかげで、中国では200万回再生されています。

▼福島さんの働きはいろいろな人の助けが必要だと想像しました。どのように人脈を作っていましたか。

旧岡川薬局のリノベーションは全国放送され、街作りの活動を認めてくれる人が増え、自然に声をかけられることが多くなってきました。

今はチームで働いているので、ある時期から講演や取材など誘われても断らないようにしています。自分一人の活動ではないからです。そういうわけで自然に人脈ができてきました。

▼今の小樽をどう見えていますか。今後どんな街にしたいですか。人口が減り、寂れ、このままではまずい。これまでやっていないやり方で街の魅力を発信したい。港エリアを人がたたずめる空間に、魅力的な場所にした

小樽港は山に囲まれた劇場 新たな文化の発信地に

小樽は三方が山に囲まれる劇場です。ステージは港、海から朝日が昇る。ワクワクできる街にしたいですね。

高橋生に「自分だけの一番を」 高校生へのメッセージをお願いします。

何でもよいから、何か没頭できるものを見つけてほしい。自分だけの一番を見つけたらいい。それは自分を支えてくれる。強い自分を見つけてほしい。願わくば、自分の一番に近いことを仕事に出来たらいいですね。

OTARU CREATIVE +(PLUS) 「共創」で繋ぐ、文化と経済のまちづくり

▲「OC+」のロゴに込められた想い、目指すところ

上記のロゴの「輪違い」は「共創」をイメージさせる。小樽に眠る資源（ヒト・モノ・コト）を繋ぎ、ブレンドし、この街にしかない価値を共創から生み出していくことで、「文化と経済の両輪で未来へ進むまちづくり」を推進していく。

人の繋がりが、様々な事がうまく運ぶ、無限に続く様子が想像できるデザインである。

■共育と共創 ～中間支援組織としての役割～

まちづくりはひとづくりでもある。OC+は、共に学び、成長しながら新たな価値を共創により生み出すための中間支援組織として活動する。社会に貢献できる人材育成を通じて、持続可能な街の発展に貢献する。

■豊富な資源をクリエイティブに活かす

— 第3倉庫の保全・活用を軸に —

この施設が街の新たな拠点となるよう、小樽市と協力しながら保全・活用に取り組む。倉庫を「創庫」に置き換え、「第3創庫」と共にこの街のMIRAIを切り拓く。文化と経済の両輪で進む街作りで「世界に誇れる小樽」を目指す。（HPより一部抜粋）